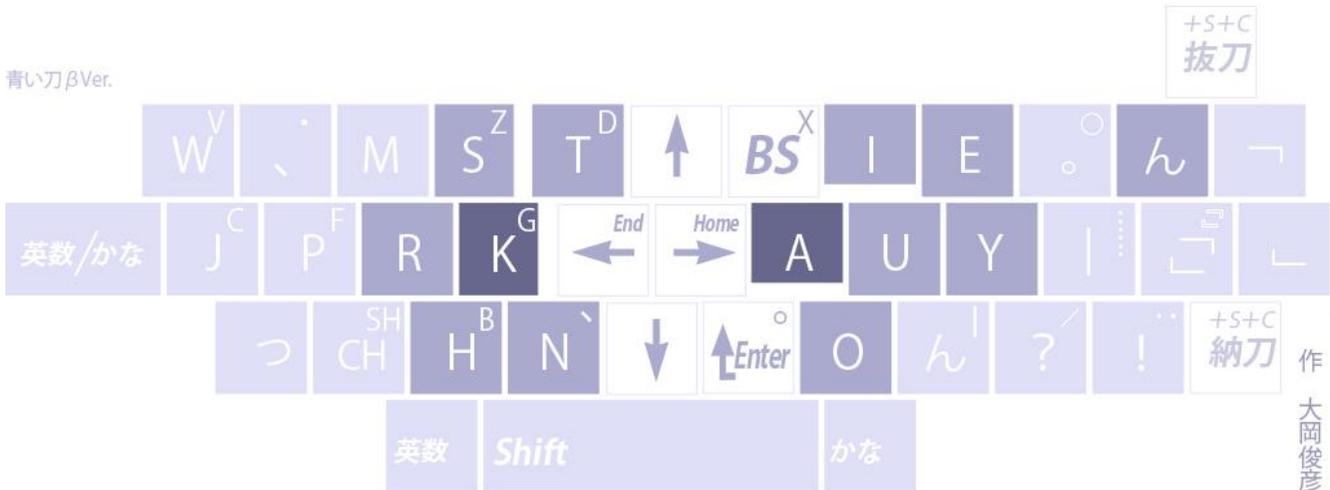


物語を書くための配列

カタナ式

作 大岡俊彦



カタナ式は、脚本家の考えた新しいキー配列です。縦書きの日本語、とくに「物語を打つ」ことに特化しています。一日数千字から一万字単位で文字打ちする人向けで、「長時間」「楽に」「速く」打てることを目的としています。

「カタナ」の由来は、ホームポジションからすぐ打てる和の言葉から。前バージョンより右手側が変わって、「青い」もすぐ打てることから、「青い刀」とします（今回は更に練った2版）。

カタナ式の最大の特長は、「流れるように日本語が打てる」こと。右手が母音、左手が子音の、いわゆる行段系ローマ字入力ですが、配置に工夫があり、「した」「ない」「それ」「だから」「そうして」「ところ」などの「日本語の中核になる言葉」が打ちやすいです。

その秘密は、母音部を7キー（五母音+Yん）、子音部をメイン6キーとしたコンパクトさです。このわずか13キー（上図で濃く示す）で、なんと93%の日本語が打てます。メインキーが少ないということは、それだけ指をよそに動かす必要がなく、素早い運指ができることを意味します。

また、右手部と左手部の境目中央部に、カーソル/エンター/バックスペースを配置。「漢字変換・確定まですべてが入力」と考える設計思想です。このため、ホームポジションから手を動かす必要がなく、手の位置キープのまま入力が続けます。

QWERTY ローマ字配列からの移行期間は約一か月、一万字打鍵を見込んで下さい。ちなみに作者は、一か月で QWERTY ローマ字の95%、約二か月で125%の巡航速度を出しています。

——きみの心の刀は、何色か？

カタナ式 (青い刀[®]版) マニュアルもくじ

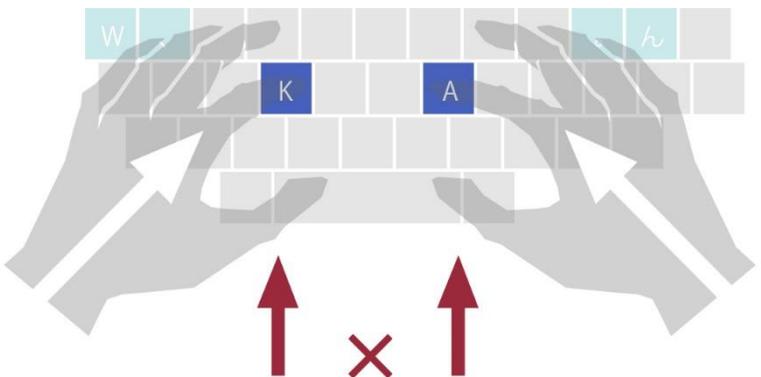
一、	使いながら覚えよう	2
二、	インストールと詳細仕様	16
	付録 意識配分表、キーボードシール	21
三、	なぜカタナ式は速いのか?	25

一、 使いながら覚えよう

カタナ式は Windows 専用です。Mac の人ごめんなさい (実装している Dvorak[®] が対応すれば使えるでしょう。あるいはキー配列交換アプリ、Karabiner で開発してみてください)。インストールと初期設定は二章を見てください。

初期設定が終わったら Word など立ち上げ、「縦書きモード」で打ちながら覚えましょう。横書きではカーソル関係に一部おかしな挙動があります。横書き用、左利き用は近日登場します。

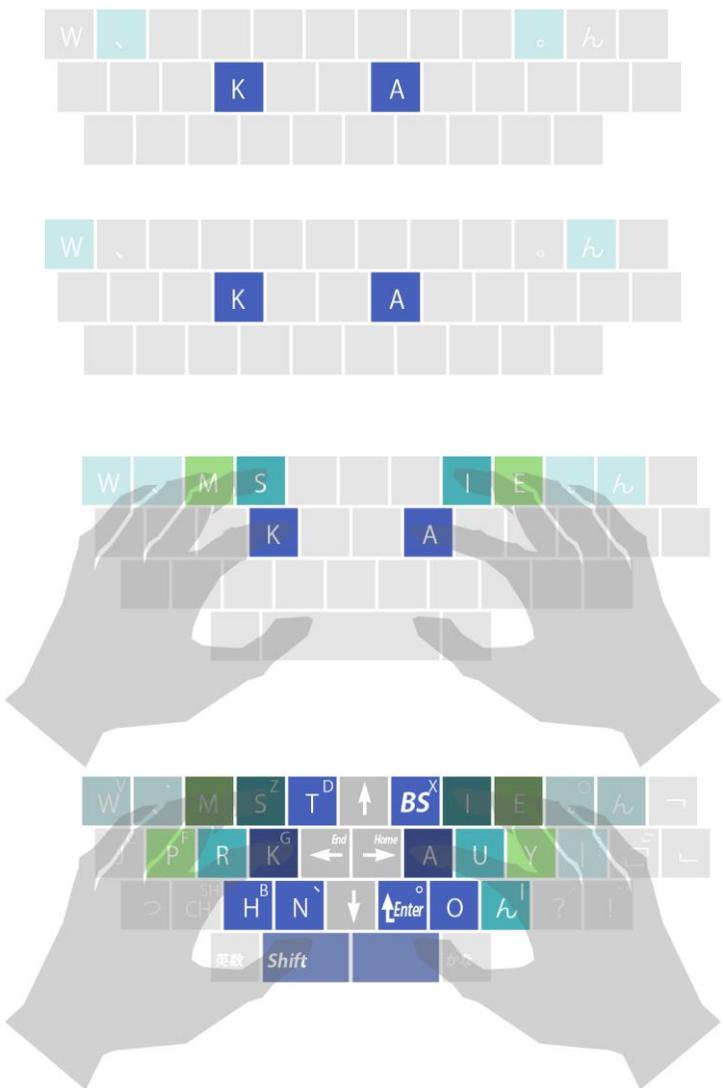
まずホームポジションが、これまでのキーボードの使い方とは異なります。



我々は紙に字を書くとき、両脇をゆるめて腕をハの字に構え、手もハの字で、対象とする字に向かうものです。ところが従来の QWERTY キーボード (左上から順にアルファベットがこう並ぶことからの通称) は、脇を締めて掌や指を直角に出さなければならず、これが肩こりや腱鞘炎の遠因になっています (両脇を開けたとしても、手首を内側に曲げる必要あり)。カタナ式は、まず自然な手の使い方から考えます。

いわゆる f j 位置 (カタナ式では右手は原初の母音 A、左手は原初の子音 K) に、人差し指を置いて下さい。そこから両手・両肘・両脇を自然に開いたとき、小指は「i」「位置または「W」「ん」位置 (QWERTY で「z」「p」または「q」「@」) でしょう。どちらがしっくりくるかは、個人の指の大きさや開き具合、キーボードによっても異なるので、自由に選んで下さい。どちらでもカタナ式の指使いに影響はありません。やりやすいようなキーボードを買

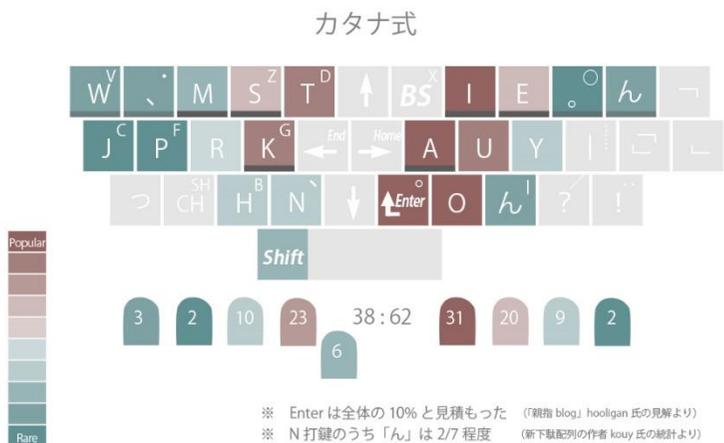
う、というのもひとつの選択肢です。新しくキーボードを買ってしまい、付録のカタナ式シールを貼れば、専用キーボードの完成！



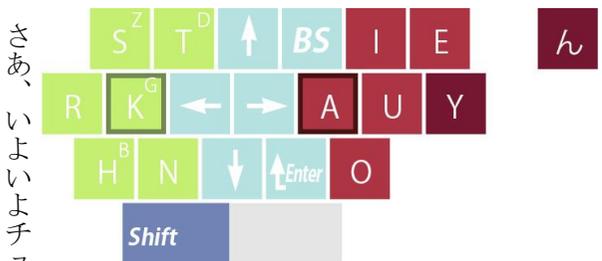
人差し指と小指を決めれば、右の中指・薬指は「I」「E」位置に、左の中指・薬指は「S」「M」位置に（QWERTYでそれぞれ「i」「o」「r」「e」）自然に収まると思います。厳密には左右対称にならないのが残念です。QWERTYキーボードが、左右対称に出来ていないからです（左右対称キーボードやエルゴノミクス、キネシス、ハの字に開くような、

QWERTY 以外のキーボードを持っている方は、逆に両手が開きすぎてしまうので、ハの字を考慮していなかった以前のバージョン、カタナ式「A」がオススメです。

上図に、各指の担当およびキー使用頻度を示します。右手使用率が支配的で、中でも人差し指使用率31%が突出しています。薬指と小指の負担は小さいことも分ります。私たちは八指が均等に動くように訓練を積んだピアニストではないので、動かせる指のみを動かすべきと考えます。私たちはタイピストではなく、新しくことばをつむぐ作家なのでから。



カタナ式の心臓部を紹介しましょう。



中央部の操作系……変換・次候補のスペースキー、確定・無変換のエンター、候補選択の左右カーソル、文節選択の上下カーソル、編集に不可欠なバックスペースがあります。つまり一通りの編集がてきます。Aキーに隣接、つまり右手人差し指で操作します。

右手のメイン……五母音+Yんの7キー（「ん」だけ遠いのは打ちやすさ優先）。一重母音や拗音変化がすべて、高速なアルペジオ打鍵可能です（後述）。

左手……6キーがメイン子音です。スペースキーをシフト代わりに使い、KをGにするときなどに使います（濁音シフト）。この工夫でメインキーが少ないのです。それゆえ高速に打て、ブラインドタッチ習得も楽です（実際、作者はこれまでできなかったブラインドタッチが、カタナ式で出来るようになりました）。

さあ、いよいよチュートリアルでカタナ式を打てるようになっていきましょう。

○変換に必要なキー

まずこれを覚えてください。

変換のスペースは、のちのちを考えて右親指推奨です。

QWERTY の時は小指を伸ばして「ッターン！」と変換を確定していいと思いますが、カタナ式では右手人差し指で「すっ」と確定します（もとのエンターキーも生きているので、「ッターン！」がしたい時は、どうぞ）。豪快な「ッターン」がハンマーだとすれば、右手人差し指の確定エンターは、ナイフや包丁でスツスツと肉を切り分けていく感覚です。ホームポジションのキーとこれらを組合せ、次のことばを試し打ちしてみてください。促音「っ」はデフォルト通り子音二つです。

例題……赤 悪化 悪漢 和漢

※左右カーソルで候補選択。

※上下カーソルで文節選択。シフト上下で文節を伸ばしたり縮めたり。

※一度エンターで確定したあとでも、シフト上下カーソルで言葉を選択し、スペースで再変換できます。

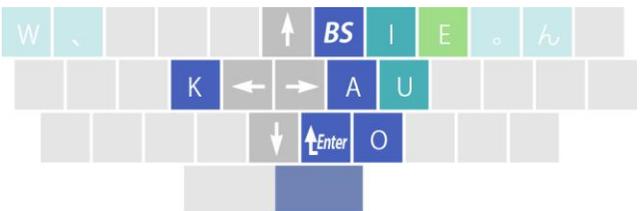
○右手1 五母音…:A O I U E

右手で五母音を打ちましょう。Eのみ薬指担当です。これは五母音でもっともEが使用頻度が低いためです。

例題

愛 I 青 青い 葵 いい青 追々 青い愛
青い家 会う 言う 上 言おう 硫黄
永遠 イオン 亜鉛

少し打ってみると分りますが、母音から母音の接続がしやすい(運指が楽)です。ここがカタナ式の秘密なのですが、次項で深く説明します。

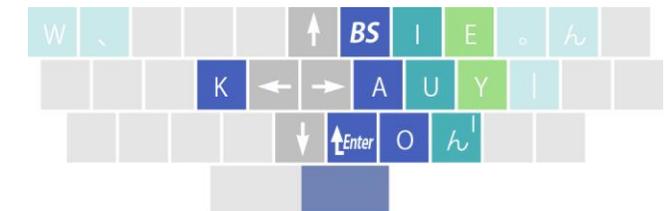


○右手2 撥音、拗音、長音…:ん Y |

「ん」はホームポジションの小指が推奨ですが、弱い小指を酷使しないように、中指下段にももうひとつ「ん」(第二「ん」)があります。ローマ字入力では、子音のあとに「ん」が来ることはなく、必ず母音のあとです。「おん」「うん」は第二「ん」のほうで打ちやすいでしょう。「あん」が楽な流れもあります。都度使い分けてください。

拗音Yは、「や」「ゆ」「よ」を打つ時は勿論子音ですが、多くは子音の拗音変化として現れます(特に漢語、二字熟語で顕著)。「きょう」「しゅう」「しゅ」「しゃ」「ちゅう」「ちよ」「りょう」「りゅう」などなど。

また熟語では、二重母音も頻出します(特に「おう」「あい」「えい」)。「かい」「こう」「そう」「てい」「とう」「めい」「よう」などなど。拗音変化と合わせて、打ちやすい配置になっています。



1 Yの外。(小指)

長音はみつつ打ち方があります。都度流れで使い分けわけを。

2 シフト+第二「ん」。(中指だがシフトがちよっと面倒)

3 次の母音系三つ同時押しのとれか。「AIE」「OUY」「AUY」「OUE」。

実は3が慣れると一番打ちやすいです。同時押し判定は「ひとつを押し下げたままもう二つ」のように緩く設定してあります。「長音は、前の母音を伸ばした音」なので、「その母音を再び押し、残り二つを押す」と打ちやすいです。「ターミネーター」（たとえば *ta(at+ie)mine(ear)ta(at+uy)*）も「ルーシーリュー」（たとえば *ru(u+oy)si(i+rae)ryu(u+oe)*）も恐くないぜ。

さて、ローマ字入力のひとつの特徴は、「子音と母音が（ほぼ）交互に出現する」ということです。

左右交互打鍵方式（カタナ式だけでなく、M式をはじめ多くのオリジナル配列に採用）は、左手で子音のみを、右手で母音のみを打つことで、ローマ字を左右リズミカルに打とうという試みです。また、片方の手が打っている間にもう一方の手が打つべきところに移動し、その手が打つ間にさらに先に移動……の反復のため、単に交互に打つよりも時間が短縮されます。かな入力の倍ほど打鍵が要求されるローマ字入力ですが、左右交互打鍵では倍も時間がかからないのはその為です。逆に言うと、打鍵速度の決定要因は「ひとつを打った後から、次を打つまでにかかる時間」なのです。左右交互打鍵はこれを減らせる打鍵方法といえます。

ローマ字入力の速度を決めるのは、まずは母音部のスピードです。一回置き以上に出現するからです。次の文の右手部のみを打ってみてください。

例文「国境の長いトンネルを抜けると」

o you o a i o n e u n e u o

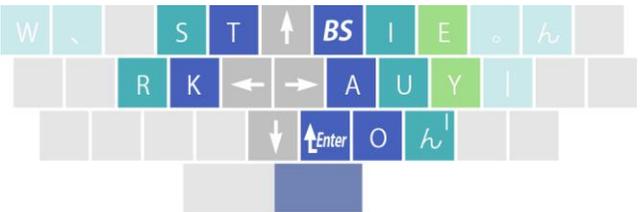
これが素早く打てるのがカタナ式の配列上の特徴です。二重母音、拗音がすべてアルペジオ打鍵になっているからです。

アルペジオとは、同じ手の隣り合う指でタラッとして打てる運指をいいます。人差し指↓中指（または逆）、中指↓薬指（またはその逆）など。二回打鍵より速い運指です。カタナ式では、*ai ou ei au ne yu o n*（第二「ん」使用）の二重母音、拗音、撥音がアルペジオになっていることを確認してください。薬指↓人差し指、人差し指↓小指など、一指以上飛んでも「広義のアルペジオ」だとすると、*ya yo you ae a n e n i n*も含まれます。

単独で拗音や二重母音や撥音を打つ時、アルペジオだと速くなりますが、子音を間に一個挟んだとしても、殆ど手を動かさなくてすむため、母音↓子音↓母音の母音部のスピードが速くなり、子音にスピードを渡せることとなります。母音部の速さ。これがカタナ式の第一の特徴です。

そしてカタナ式では、子音部にもアルペジオが多く発生するのです。次の子音部で実際に見ていきましょう。

○左手1 メイン6キーのうち4……K S T R



左手は子音担当です。

左人差し指のホームポジションは、子音の第一音Kです。

まずはKSだけで体験してみましよう。

なお、「し」「じょ」「しゃ」などは「si」「syou」「sya」推奨です。(勿

論 shi shou sha でも打てますが、推奨版のほうが最終的に速いです)

例題

世界 最高 交際 構想 草稿 キス 好き
しかし 先 四季 軌跡 継承 憧憬 昇華 仮称 宗教 郷愁
進行 更新 金銭 真剣 せっかく すき焼き やけに しゃん

次にT、R。キーボードの非対称性のためTがやや打ちにくいのですが、人差し指、中指で場面により打ち分けてください。物語における最重要語、「する」「した」「すると」「したら」などが打ちやすいことを確認してください。また「ち」「ちよう」は「ti」「tyou」推奨です(chi chouでも可能)。

例題

する した すると したら それ これ から 空 ソロ

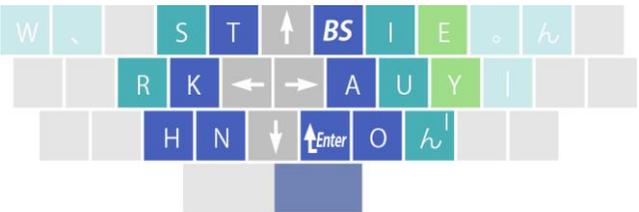
語り 来る 来た 来たら 恋 したから それから

知る 知る時 ところ 男 作家 サッカー 作者 高い 宝 知らせ そうこうする

損得 ちゃっかり 兆候 校長 証拠 社長 今日 明日 競争 闘争 灯火 楽観

韓流 シート コース ルート ショート シェイク チャット

○左手2 メイン6キーのうち残り2……N H



人差し指でN、Hを覚えて下さい。

左手でも、器用な人差し指は担当が多めです。

例題

ない しない 来ない 足りない 知らない

その この その時 人 その人 女

深い 迫力 放棄 放置 風雨 吹く 減る ほのかな 狼煙

ヒュー斯顿聞こえるか 悲観 刀 魚 はるかな彼方

ノウハウ 奈良の鹿 搬出 頻出 変態 夜に花の咲く家

○左手3 濁音シフト……G Z D B

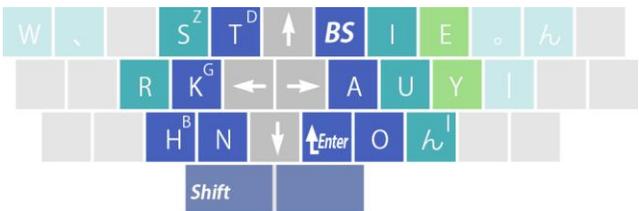
スペースキーを押しっぱなしにすると、シフト機能がわりになります(Sands: スペースアンドシフトという機能を使っています)。混乱を避ける為、左手(子音側)でスペース押しっぱ↓濁音シフト、右手(母音側)でスペース叩く↓変換や空白、と、左右で役割をわけるとよいですよ。

濁音G、Z、D、Bを覚えてください。

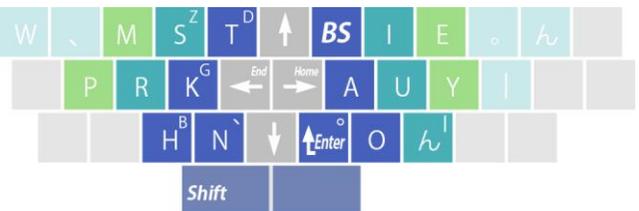
「じ」「ぢ」「じょう」「じよう」は同様に「ぢ」「ぢい」「ぢyou」推奨です。

例題1

だが ずっと ざっと どうして そうだ です
 だがしかし だけで 何処へ行く 毒の弾丸 ゲート ゲスト
 雑巾 罵詈雑言 泥棒猫 事情 ジントニック 条件反射
 地獄の沙汰も金次第 九州男児 財前教授 ギャンブル バカな人が
 ぼろ雑巾 薔薇の名前 びっくり仰天新記録 そんな筈じゃなかった
 のに



○五十音すべて



左薬指 M P
 左小指 「、」「
 右小指 「。」

これで純粋な日本語に必要な五十音と句読点が揃ったので、基本的な文章作成はできる筈です。

両小指は「端っこ」(W「」「。」「ん」「ー」と覚えましょう。

例題

もういいだろう またか します 染みることを言う 思う
 ポールポジション パートツー
 妙なこともあるものだね、娘よ。

また入力を楽しむため、以下のものを用意しました。

右人差し指下段内側 「。 + 確定」 (シフトエンター)
左人差し指下段内側 「、 + 確定」 (シフトN)

勿論シフトはスペースキーが使えるので、スペースを押しながらで。

文章「文1、文2。」を打つとき、次の二通りの打ち方があります。

- 1 「文1、文2。」と一気に打って変換、エンターで確定 (小指の句読点使用)。
- 2 「文1」を打ち変換。エンターで確定せず「、 + 確定」で一気に確定。同様に「文2」を打ち変換、確定なら「。 + 確定」。次の文へ (人差し指の句読点 + 確定を使用)。

個人的には後者のほうが効率が良くて好きです。

さらに、カーソルキーに次のものをシフトでバインドします。

シフト + 「Home」シフト + 「End」

(縦書きは右上から左下に進むので、→が行頭、←が行末と覚えてね)。

☆ 便利テク……誤変換で確定してしまったとき!

「↑」キーで戻りつつ、「シフト↑」で再変換したい言葉の先頭まで選択。スペースで変換↓ただし候補を選択↓エンターで確定↓「シフト↑ (End)」で文末へ。

例文1……川端康成「雪国」冒頭部

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。向こう側の座席から娘が立って来て、島村の前のガラス窓を落とした。

例文2……吉本ばなな「キッチン」冒頭部

私がこの世でいちばん好きな場所は台所だと思う。どこでも、どんなでも、それが台所であれば食事をつくる場所であれば私はつらくない。できれば機能的でよく使いこんであると思う。乾いた清潔なふきんが何まいもあって白いタイルがびかびか輝く。

右 O YOU A AIO ン E U O U E U O Y U I U I E A A
 左 K K K N N G T N R W N K R T K G N D T T

あらためて、空白部（手指を大きく動かす、時間のかかる部分）が少ないことが見て取れます（三章では、他の配列と比較して更に深く議論します）。メイン13キーだけで日本語の93%を打てるほどでした。つまり殆どの打鍵で、左右の指が隣へ行くだけで済むのです。「流れるように打てる」のはこのためです。

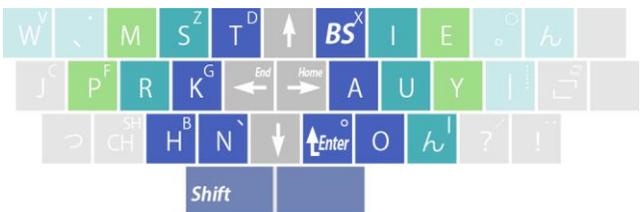
この楽しさ、流麗感、長文であればあるほど効いてきて、最終的には一日に打てる文字数、疲労度に効いてくることでしょう。

○ 外来語子音、記号など

これまでのもので「日本語」は打てますが、「ヴァ」「テイ」などの外来音を打ちやすくなり、物語を書くときに便利な記号系を追加しておきます。

- 左手 V (シフトW) F (シフトP) J (C)
- 「 \llcorner 」 CH (SH)
- 「 \cdot 」 (ナカグロ、シフト「 \cdot 」)
- 右手 X (シフトBS)
- 「 \circ 」 (シナリオでシーン先頭記号のマル、シフト「 \circ 」)
- 「 \llcorner 」 (カギカッコ開く閉じる一文字戻る)
- 「 \dots 」 (三点リーダー二文字)
- 「 \sphericalangle 」 「 \cdot 」 「 \cdot 」

XはYの変形という考えで右手担当にしてあります（頻出でないことからシフトBSという特殊な位置にあります）。「あ」(xa) 「や」(xya) などの入力に使って下さい。Lは存在しません。



頻出する外来音ローマ字入力についてまとめます。最悪「一文字目+X母音（または拗音）」で打てます（例「ジャ」を「zixya」「jixya」で）。

ファ フィ フェ フォ fa fi fe fo
ジャ ジュ ジョ ja ju jo (dya dyu dyo 推奨)
ツァ tsa シィ tsi
ヴァ ヴィ ヴェ ヴォ va vi vu ve vo
ウィ ウェ ウォ wi we uxo (wo が「を」のため)

デフォルトにはないローマ字入力設定で、以下のものもカタナ式では定義しました。

ティ tyi txi (デフォは thi) ディ dyi dxi (デフォは dhi)
トウ txu (デフォは twu) ドウ txu (デフォは dwu)
スイ syi sxi (デフォは swi) ズィ zyi zxi

「っ」は子音ふたつでは打ちにくい促音(「あっ」など)の時にご活用ください。

例題

ティーカップ ディレクター ジョン・タイター ファイヴ 「げえっ……」

ところで、英字については、いままでわざと触れてきませんでした。

実はカタナ式の弱点は英字です。カタナ式の配列は英語の流れを無視しています。それゆえ、カタナ式には「かな」キーと「英数」キーがあり、かな(全角入力)と英数(半角入力)を切り替えて使うことにしています。「かな」モードではカタナ式、「英数」モードでは QWERTY 配列が初期設定です。英単語などは「英数」からの入力がおススメです。また、**ctrl**を押しながらの入力でも元の QWERTY 配列になるようにしています。**Ctrl+s cv xzf**など、多くのショートカットは指が覚えているだろうからです。

○あとは、慣れるだけ！

カタナ式は、人差し指を K A、小指を W んまたは「」「」に置く、独自のホームポジションを提案します。また、そこからの運指が最適になるように各キーが配置されています。この形が翼に見えることから、「翼ホームポジション」と呼んでいます。

長い時間打っていると、つい癖で一直線のホームポジションに戻りがちですが、なるべく翼ホームポジションは守りましょう。脇と肘を開けて、緊張を取りましょう。左右の人



差し指と中指（SKAI）を守ると安定しやすいです。SKはキーの右端、AIはキーの下端に触ると、運指が楽になります（表紙のカタナ式をよくみると、触るべき部分が少し欠けているのが分ると思います）。

以後のオススメの練習法は、俳句や短歌を打ったり、好きな歌の歌詞を打つことです。

日本語として自然な言葉の組み合わせが、短く、沢山出てくるからです（英語が頻出する歌は避けましょう（笑）。たとえば「津軽海峡冬景色」などの演歌や昭和歌謡、フォークあたりの難易度がちょうどよいです。僕は昔のアニメや特撮の主題歌で練習しました）。電車の中で、目についたポスターの言葉をとっさに打つイメトレなんてとてもいいです。

長文に挑戦したくなったら、自分の過去原稿を打ってみるのも良い手です。自分のボキャブラリーだとやりやすいでしょう。

リズムのコツは、QWERTYのダララ、ダララララ……ッターン！と指が忙しい（けど文字数はあまり進まない）感じではなく、一文字打つのに二鍵「たた」と押して、それが「たたたたた……」と淡々と続く感じですよ。

そのうち「音単位」では、元のQWERTYと遜色ないスピードで打てるようになるでしょう。その先は、「言葉単位」「文章の流れ」で運指を覚える段階です（流れを覚えるのは、アルペジオの多さから、とても楽です）。

意識より先に指が先回りするようになったら、スピードが乗って来るでしょう。そもそもそうやってQWERTYをマスターしたことを思い出して下さい。ここまで二週間ぐらいいかな。

途中で英語を打たなくてはならなかったり、QWERTYに戻らなくてはいけないことも多々あるでしょう。そのたびに指がごちゃごちゃになります。過渡期の症状だと考えてください。一か月もすれば使い分けができるようになってきます（最終的には初期設定で英数もカタナ式にしてしまいたいです。実はQとLがありません。近日登場の横書き対応版では26アルファベットがありますが、そのぶん機能が限定されますので、自分の用途で使い分けて下さい。「物語を書くための縦書き」というたい文句は、半角は登場しない、と用途を限定するためであります）。

二週間もテスト打ちすれば、いよいよ実戦投入です。自分の思う文章をひたすら打つことです。いきなり原稿執筆だとハードルが高いので、プロットや短文メール、思ったこと

のメモやブログなどをカタナ式で書いていきしょう。「自分の中から出て来た言葉を打つ」のが一番いい経験になります。

また、「左手の子音パートだけ打ってみる」「右手の母音パートだけ打ってみる」というトレーニングもオススメです（特にブラインドタッチの練習に）。

経験上、一万字を打てば手が覚えるでしょう。「カタナ式の導入コストは日本語一万字である」という言い方もできます。

一万字が「多い」という人は、多分普段長編を書いていない人です。

「なんだ、たった原稿用紙二十五枚か」と思える人は、カタナ式を必要としている人です。

おまけ「いろは課題」

次のことばは、五母音（A I U E O）と主要六子音（内側二列の T K N S R H）の「全て」を含むことばです（ときに Y 「ん」、M も）。練習用にどうぞ。

ブラインドタッチを始める時に、指位置を確認修正する、ルーチンワードとしても使えますよ。

殺された犬は	烏森の変態
怒鳴れハスキー	財布にところてん
正統派のコンロ	ジャカルタへの道
そんな、出来る筈。	弾丸小僧にベルが鳴る
相当大変なコラ	静寂のほどり
春の天気さ	さくらの下へ
へりの誤作動	ダブルの惨劇
今日の閉鎖ルート	バンバンに光線出る
はんなり交際してん	テラスハウスに來い
露骨に特別	そっくりなデブ
象徴天皇制は、斬れ。	ろくでなしブルース
変態すぎるの	誰も知らない部下
バネがそっくりだ	値切る誕生日
ニヤン太郎はクズ	コロ助は泣いた
中村シフトね	田中広末
詭弁なら想定	病人助けてろ
講談社の憐憫	野原でキス
赤兎馬に乗る	昼カスターネット
今日の七変化ら	佐渡島ねぶる
しれっと日向夏	船ソロ大会
尻コレナンバーツ	ラケット船橋
残念な頃の恥部	世間のつらい日
殿のしゃべくり	逃げ出したノブ
超能力冷蔵庫冷え冷え	残された部位
カスタードの返礼	助からないへボ
ひとつ上のから騒ぎ	整形は泥沼

しやれこうべにて

胸騒ぎの出る病院（P以外の全母音子音部使用）

ニュー・パラドックスを明文化。（全母音子音部、長音、句読点部使用）

二、 インストールと詳細仕様

カタナ式を動かすまでの設定方法と、詳細な仕様を書いておきます。マニュアルとしてお使い下さい。

Windows／日本語変換 Microsoft-IME／ローマ字入力／QWERTY キーボード (すべてデフォルト) 用。キー配列変更アプリ Dvorakj 上で動いています。

(Dvorakj が Windows 専用なので、Mac のみなさんはごめんなさい)

縦書き専用です。横書きはカーソル移動の挙動 (「」カギカッコ開く閉じ後の挙動と、シフトカーソルのバインド) がおかしいです。横書き対応版を待て。

なお、Dvorakj は、コピーしてダブルクリックするだけで使え (起動時に自動起動にも出来る)、USB などに入れて持ち運べる、レジストリをいじる必要のないキー配列変更ソフトです。複数のパソコン (共用、出先など) でも USB からコピーして、同じ設定で使えます。

Dvorakj とカタナ式 (どちらもフリー) をダウンロードし、以下のように設定します。

Dvtrakj: blechnusik.xii.jp/dvorakj

カタナ式: カタナ式.txt

てんぐ探偵人物表.txt

(後者の人物表ファイルは、F₁₂ キーに登場人物名を割り当てる設定ファイルです。
「自由」に書き換えてご利用ください)

1 Dvorakj を置く場所を決めてください。Windows ならドライブ上、USB なら最上層かな。

2 起動し、設定を以下のようにいじって下さい (一度設定すれば、毎回同設定で起動)。

入力全般

Sands なび 「Sands: [Space] [Shift] の機能も担わせろ」 ……オン

待機と遅延 日本語入力 ……20 ミリ秒

キーを発行させるのに遅延する時間 ……20 ミリ秒

(お使いのパソコン、アプリの速度、打ち手の素早さなどでも変わるのので、色々変えてみて下さい。Dvorak]を再起動するとその設定になります)

IME関連

「IMEの状態の変更(直接入力と日本語入力の切り替え)」
……[Ctrl]+[Space]を、オン

修飾キー関連

「修飾キーを押し下げている場合にQWERTY配列を使用する」
……オン

日本語入力

設定ファイル……Dvorak]フォルダの中のuserの中に「カタナ式.txt」を入れ、それを選択

「日本語入力の設定/日本語入力配列を日本語入力時のみ使用する」……オン

「[Shift]+[文字]のとき/未設定のときには何も発行しない」……オン

単一キー

[Esc]など

[Caps Lock] 直接入力時 …… 「日本語入力にする」

日本語入力時 …… 「直接入力にする」

[無変換]など

[無変換] 直接入力時 …… 「直接入力にする」

日本語入力時 …… 「直接入力にする」

[変換] 直接入力時 …… 「日本語入力にする」

日本語入力時 …… 「日本語入力にする」

ファンクションキー 「独自のファンクションキー」……オン

この設定を利用して、登場人物名をファンクションキーに登録できます。

user フォルダ下に「てんぐ探偵人物表.txt」を置き、選択。ファイル名も内容も自由に書き換えてください。

その他

起動時の設定 ログオン時にDvorak]を起動する……オン

Dvorak] 起動時に設定画面を最小化する……オン

ホットキー Dvorak]用のホットキーを有効にする……オン

実行を停止する C~(全て半角。大文字C、ハイフン、アンダースコア)

実行を再開する C~(同、半角ニヨロ)

3 ワードなどを立ち上げ、原稿を縦書き設定にしてからお使い下さい。

また、この **Dvorak** フォルダを丸ごと USB に入れば、カタナ式を持ち運び、任意のパソコン上のデスクトップにコピーして使え、捨てれば元通り。

4 登場人物表は、長編を書くのに有用です。ファイルを複数作れば、複数を同時進行で書けます（順次、コピーなどしてファイルを増やし、ファンクションキーに設定してください）。

カタナ式 詳細仕様

納刀 (カタナ式オフ) Shift+Ctrl+_ (アンダースコア) 元の日本語入力に戻る
抜刀 (カタナ式オン) Shift+Ctrl+~ (ニョロ) カタナ式起動

※ キーボードの右下と右上と覚えてね!

カタナ式中でも、英数モード中とCtrlを押している時は QWERTY 配列に戻る設定です (初期設定で変更可能)。

※ Ctrl+S, C, V, X, Z, F などはキー固定のまま!

かな入力 かなキー (二変換キー) かな入力モード (カタナ式配列) <
英数入力 英数キー (二無変換キー) 英数入力モード (QWERTY 配列) <

※ Macライク。

かな/英数切替 Ctrl+スペースキー ※ Macライク。

Caps lock

Alt+半角/全角 ※ Winのデフォ。

スペースキー押したままだとシフトキーと同じ (Sands: スペースアンドシフト)。

ローマ字入力仕様

母音 A、I、U、E、O

撥音 「ん」キー (または nn)

長音 「ー」キー、または「AIE」「OUY」「AUY」「EUO」同時押し

拗音 子音+Y+母音 (kya ㇿ「きゃ」など) 「ぁ」など小さい母音は、X+文字

濁音になる子音 K、T、S、H (シフトで G、D、Z、B)

濁音にならない子音 N、R、M、W、P、Y

促音 「っ」キー (または子音ふたつ。sokka ㇿ「そっか」など)

外来語用子音 J、F、V、C

二重子音 CH、SH (「ち」は ti/chī、「し」は si/shī、「じ」は zi/jī)

どちらもOK)

※ 「ー」以外はデフォに同じ。なお、L、Qはない。

記号

句読点「、」「。」「？」「！」「”」「」（カギカッコ開く閉じ一文字戻る）、「……」（三点リーダー二文字）、ナカグロ「・」、シーン先頭記号マル「○」など。

濁音シフト逆順機能

「スペース（押したまま）＋K＋A」で「が」だが、スペースが遅れて、「K＋スペース（押したまま）＋A」とタイプしても「が」になる仕様。すべての濁音、濁拗音で。

外来語の独自入力

発音	独自	デフォ	※
テイ	tyi	txi	thi
ティ	dyi	dxi	dhi
トウ	txu	twu	txu
トウ	txu	dwu	txu
スイ	syi	sxi	swi
ズイ	zyi	zxi	swi

● カタナ式で出来ないこと

「縦書きの日本語文章、特に物語」がカタナ式の想定文章です。便利さのために犠牲になった機能があります。いずれも縦書きではレアケースと判断したためです。

半角英数

英数モードから入力。QWERTY配列に戻ります（初期設定で英数時にもカタナ式配列に変更可能）。

全角アルファベット

かなモード中、子音なら一文字打って変換。

母音は「エー」などの読みから変換。

大文字アルファベット

シフトが濁音用のため不可。変換で。

ないアルファベット

Q、L。ローマ字入力には使わない為。右同様。

ない記号入力

＋＊、；など。半角入力して、シフトカーソルで選択して変換、または読みを入力して変換。

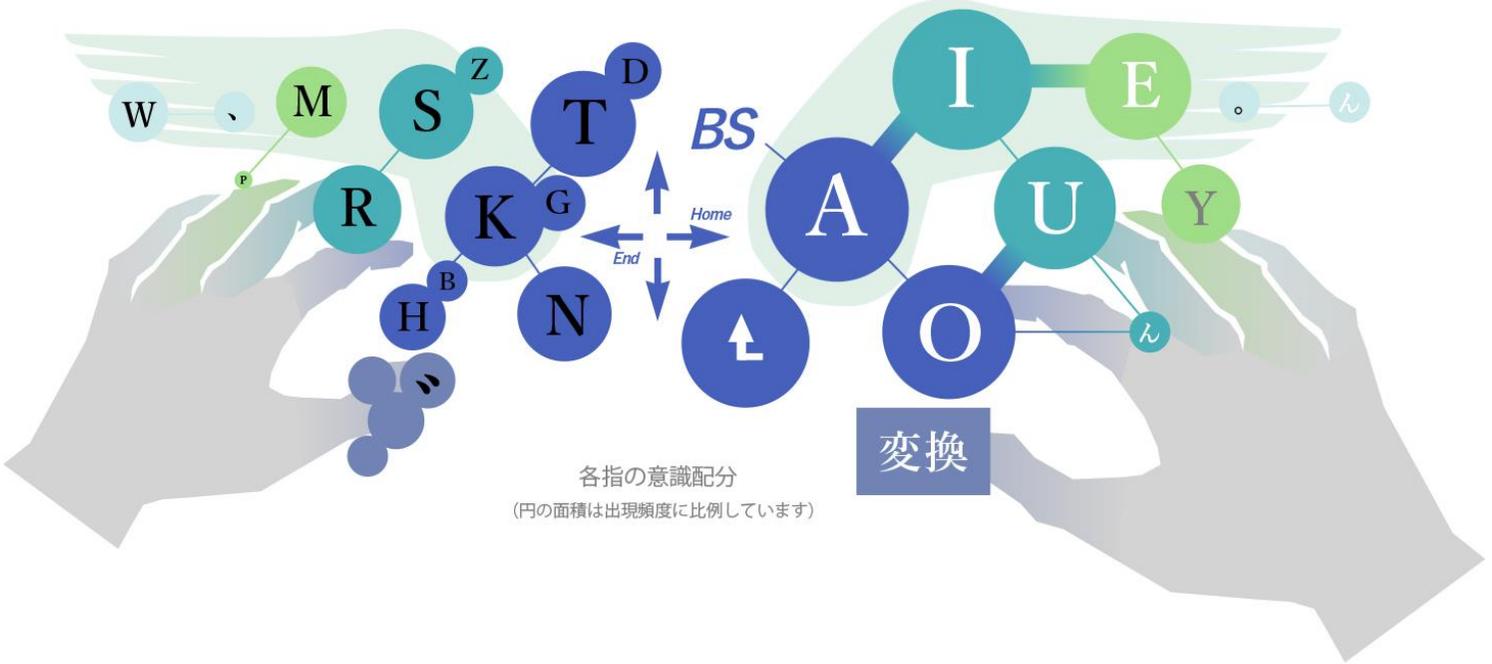
カタカナ直接入力

出来ません。ひらがな入力後、変換。

最悪カタナ式オフ↓元のMS-IMEから入力↓カタナ式オンで対応してね。

付録1 意識配分表

各指の意識配分をイラストにしてみました。出現頻度に比例した円の大きさです。母音を結ぶ太い線は二重母音を示します。イメトレ用にどうぞ。



付録2 キーボードシール

物語を書くための配列

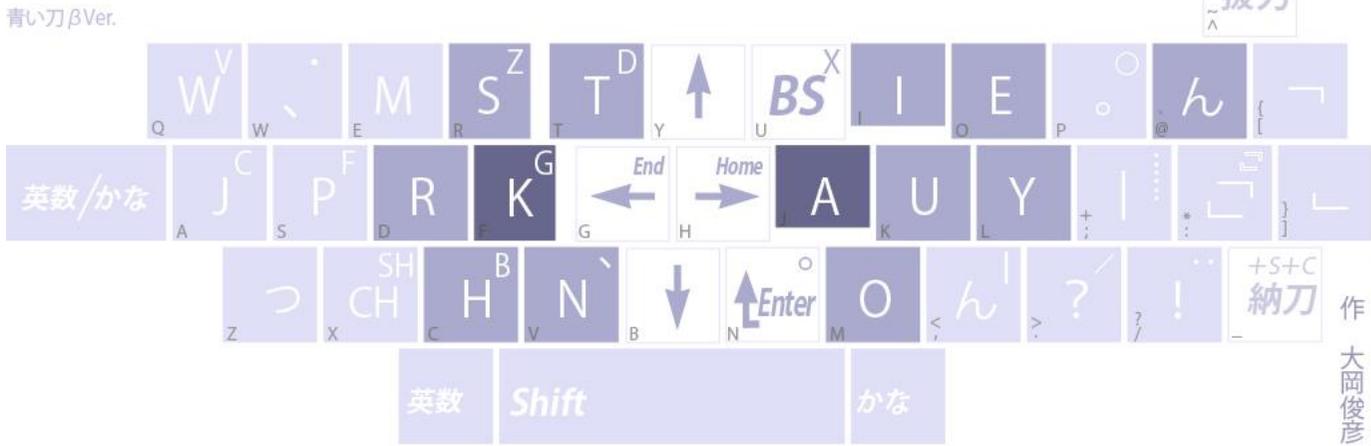
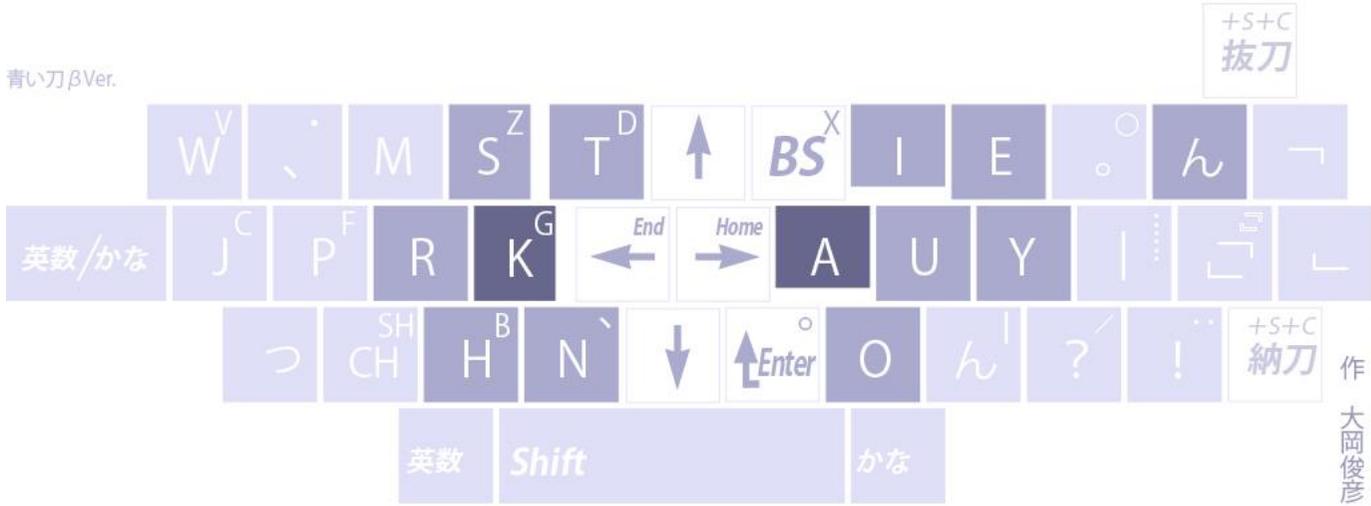
カタナ式

物語を書くための配列

カタナ式

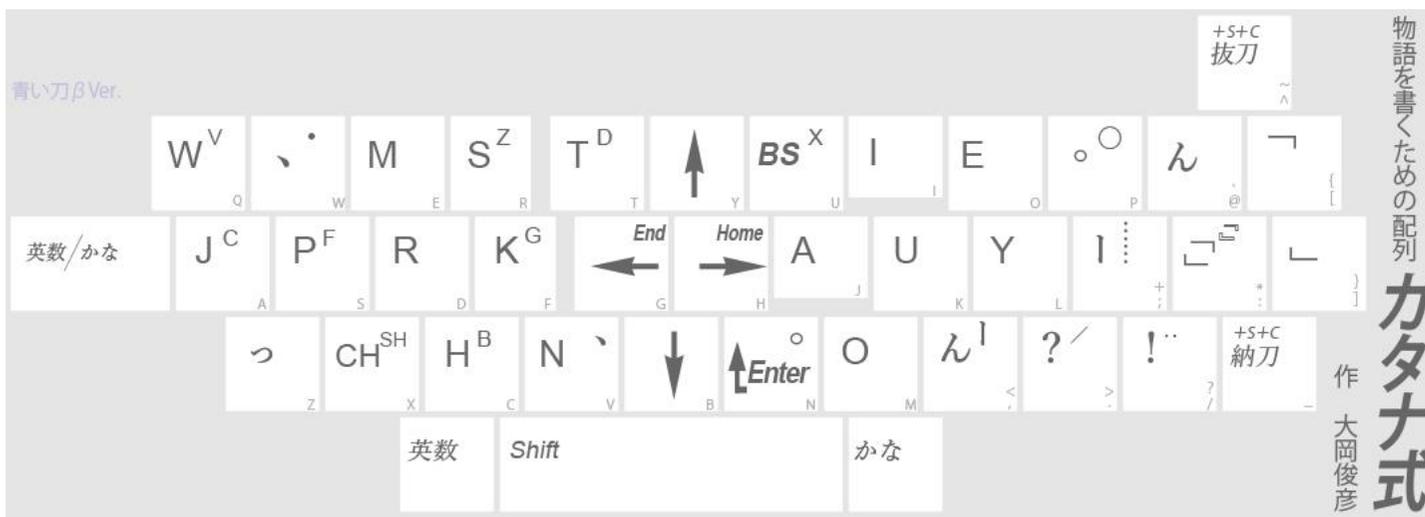
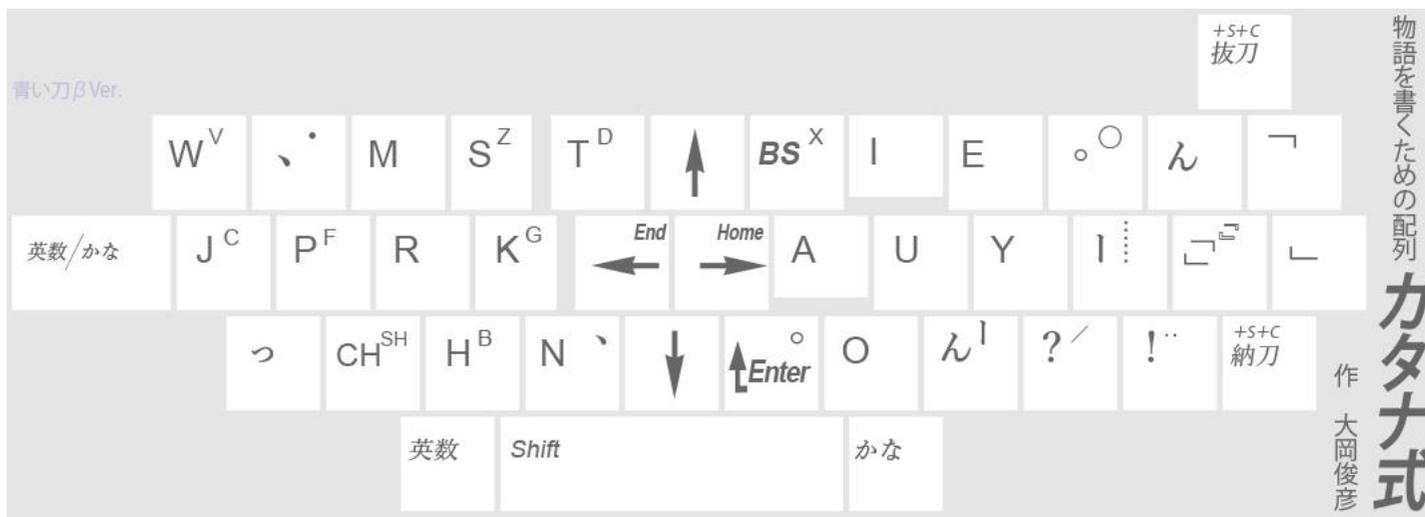
作 大岡俊彦

作 大岡俊彦



適宜拡大縮小してプリントアウトし、キーボードに貼ってください。**QWERTY**併記あり
なしの違いです。

デザイン違います。好きなものを。



用意するもの……カッター、貼ってはがせる糊

- 1 サイズを合わせてプリントアウトしたものを、カッターで切り抜き、キーボードに貼って下さい。
- 2 翼ホームポジションの4キー（SKAI）に、カッターや彫刻刀で線を入れたり、やすりで削るなどして立体的な手掛かりを作して下さい。ブラインドタッチの時便利です。左手のSKは内側（キーの右端）、右手のAIは下側に手がかりを。
- 3 紙を貼らずとも、キーを物理的に入れ替えたり（ノーパソなどのパンタグラフ式なら外すのは容易）、サンドペーパーで削ってマジックで書くなどして下さい。
- 4 安価なキーボードを購入し、カタナ式にキーを入れ替えた新キーボードと、旧キーボードを二枚使い分ける手もあります。バッファロー社のBSKB22（白だとマジックで書ける）は、¥1500程度で買えるBluetooth無線キーボードなので、捨てるつもりで試すのもアリ。ちなみに筆者はこれを愛用しています。



（筆者のリアルキーボード。キーを物理的に入れ替え、削り、マジックで書いています。何バージョンか試したので、ホームポジション用にキーが沢山削られておりますが。「英数」「かな」だけ最初のシールを貼ったままです。油性マジックで書くと手油で溶けてゆくの
で、定期的に書き直すか、スプレーのようなものでコーティングすることをお勧めします。
勿論作業するときはキーを外してからね！）

三、なぜカタナ式は速いのか？

キーボードは、ひとつじゃない。

それは僕が現状の日本語入力の方々に不満を持ち、いろいろ調べてから知ったことでした。

そもそも QWERTY 配列は「英語」圏のものでしかありません。フランス語、ドイツ語、ポルトガル語キーボードなどでは、アルファベットは二十六文字でもないし、配列順も違うのに驚きます(左上から順に現れる文字で AZERTY 配列、QWERTZ 配列などごとく)。自国の言語にあわせてアレンジしている国と、現状維持で無思考の国があるということですね。そもそも日本は「外国」といえばアメリカしかない時代が長かった歴史はありますが、二十一世紀にもなつて GHQ もないでしょう(現在ローマ字表記は、日本人の制定した「訓令式(し)」「ち」「じ」「つ」は si, ti, zi, du だった)と、GHQ が強制した「ヘボン式」が混在しています。オルタナティブは常に存在することを、忘れてはいけません。

八十年代、日本語入力黎明期、独自の日本語入力方法を開発した先駆者たちは沢山いました。トロンキーボード、M式、親指シフトなど、ハードごとつくられた歴史が過去にあります。しかし「市場原理」に流されてしまい(コストや、流儀を変えることへの抵抗)、日本では QWERTY 配列+ローマ字入力がデファクトな、「嫌々の」スタンダードが現状です。

僕は昔から疑問でした。QWERTY は日本語入力に合理的じゃない。Aの左小指が痛い(最初の音が、なぜ左小指?)。頻繁に使うエンターやバックスペースがなぜ右小指?(英語でエンターを打つのは段落を変える時だけに、「確定」の頻度とは同じでないだろう!)。そもそもホームポジションの f j を殆ど使わない。AやKが来るべきでは? 変換の度にいちいちカーソルまで腕を出張させなきゃ。効率が悪いっつらない。パソコンは横書きメインかも知れないけど、そもそも日本語は縦書き。こんな不合理な道具を嫌々使うことは、かなりの不合理な損失ではないか? あるいは、合目的な道具を、発明するべきではないか?

QWERTY 配列がどういう経緯で生まれ、支配的になったかはここでは触れませんが、それを改良したものはあまり知られていません。英語に関しては Dvorak 配列(1963年)があり、タイピストの記録を持つことで知られます。

ニコラ配列として入手可能)、カナ入力を研究する者、ローマ字入力で合理的な配列を考える者。

現実的には、「カナ入力」か「ローマ字入力」の二択になります。「漢字コードを直接入力する」のが慣れれば最速ですが、我々は入力業じゃない。

一方の雄、「カナ入力」は、一打一文字が魅力です。打鍵数はローマ字の半分。疲れないでしょう。慣れたら速いでしょう。しかし五十音以上のキーを覚える必要があり、マスターするまでの敷居の高さが欠点です。

子音15 (母+KGSZTDNHBP MYRW) × 5 | 4 (YI, YE, WI, WE) + 促音捨て仮名10 || 81字、または五十音と「濁音記号」「半濁音記号」で対応しても57字ある文字数を、10か11ある3段または4段のキーにどう合理的に配字するかに、定まった見解はありません。

結果的に「シフト駆使」が起こります。親指シフトや中指シフトや薬指シフト、濁音をもとの字でシフトにするか(清濁同置)、または頻度の高いものを打ちやすいものにして清濁同置の原則を捨て、覚えにくさの代わりにスピードを求めるか(清濁別置)。

ニコラ配列(親指シフト)、中指ニコラ、花配列(中指シフトの元祖)、月配列(2ちゃんで練られたもの)、飛鳥配列、新下駄配列、蜂蜜小梅配列などが個性や合理性を競っています。

他方の雄、ローマ字入力。打鍵数は倍ですが、覚えやすさ、移行のしやすさが魅力です。14+5+X || 20キーを覚えれば、81字を打てるからです。

ローマ字用配列では、まずは QWERTY または Dvorak をベースに拡張入力を定義する ([ci] で「き」など) AZIK' チーズタイプینگ、ACTOR' 蒼星配列などが生まれました。「ひとつの配列で、英語日本語両方を打とう」と考えます。

次に、「日本語配列と英語配列はわけて考える」という合理が生まれます。「二種類の配列を、都度行き来すればよい」と考えたわけです。われらがカタナ式はここに属します(その配列内でも英語を打ちたい」と先祖返りする派閥もあり)。

あとは、「何が合理的か」という、考え方の違いになってきます。

- ・ 中段一段(または二段)で入力する(つばめ配列、ひばり配列、すずめ配列、Phoenix配列。MOZ配列だけが「あいうえほホームポジション(カタナ式△△の馬蹄形に同じ)」という独自なものからの展開を想定)。
- ・ 人差し指で母音、あとの指は子音(ろまカナ配列)。
- ・ 右手で母音、左手で子音(もつとも直感的で、バリエーションも多い)。
- ・ 逆に左手母音、右手子音(Dvorakベースに見られる。ア段補完で母音を4つに減らしたカナガワ配列など)。

バリエーションの多い三番目、いわゆる行段系を、カタナ式と比較してみましよう。
 SKY配列、Km式配列、きゅうり改配列、和ならべ配列、市式(仮)配列、やつがしら配列と、いぬふぐり配列、けいならべ配列をとりあげます。

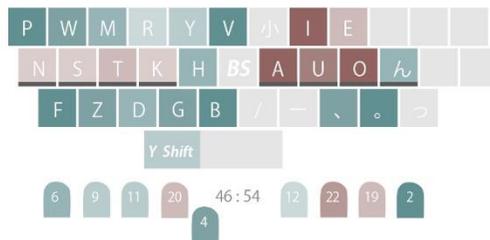
きゅうり改配列



SKY配列



いぬふぐり配列



和ならべ配列



Km式配列



けいならべ配列



市式仮配列



やつがしら配列 v2



「ホームポジションに指が集中しているか」「各指の頻度が均等か、人差し指から小指に単調減少しているか」がみるべきところでしょう。

細かく見ていきます。左右交互打鍵の母型となるのは、S K Y配列とK m式配列と考えます。どちらも子音は「K S T N」と五十音順ですが、母音部が異なります。一列にホーム中段とするか、二段に積んで台形とするかです。前者はピアニストのように訓練を積んだ、ブラインドタイプ向きでしょう。後者は、二重母音がとても打ちやすい配置です。それゆえ、亜種にはこの配置が多いです(カタナ式もさまで、母音部はこれと同じでした)。

S K Yでは母音部に二重母音と「母音+ん」があります。「ん」があると、子音のNの出番を減らせるのです。「ん」のないK m式では、左小指のNの負担が気になります。

このふたつの母型からの発展は、左手をどう快適にしていくなかの差だと考えられます。五十音順の「K S T N」が、頻度順ではないからです。N V T V K I I Sです。「ん」を設置すればT V K I I S Nに)。次点で頻度の高いR Yを、どこに置くかも注目ポイントです。

カタナ式が独自の考えであるのは、「横一直線の従来のホームポジションを、ベストと考えない」ことだと思います。僕は薬指も小指も信用しません。人差し指が一番信用できません。中指はその次。できればそれだけで打てるのがいいと考えました。また、僕は左手も信用してません。右手の方が倍は器用です。僕は、出来るなら右手の人差し指一本で渡っていきたい。せめて、ペンを使うような指の配分にしたい。

カタナ式の頻度表です。右手人差し指と中指に51%を負わせた、特異なバランスです。薬指と小指の負担が極端に少ないのもカタナ式の特長です。そういえばパソコンのキーボードに触る前は、こんな意識配分じゃなかったっけ？ 指の「無意識な器用さ」に比例した頻度だと僕は考えます。

K m式などの台形型母音配置は、E Oが薬指なので右薬指が10%後半も使われてしまうのが欠点です。カタナ式V2が「青い刀」に改造された最大の理由がここです。台形母音は「右薬指が痛い」のです。

左手の子音部も見ておきましょう。G D Z B Pをどう配置しているか、各配列を見てください。規則的に配置して覚えやすくしているもの、頻度に合わせて規則を崩しているものなどさまざまです。

カタナ式の子音配置は、独自の濁音シフトにより「子音キー数自体を減らす」考え方で。その結果、指の移動距離が減り、左手アルペジオが多数生まれました。それが打鍵の流れの楽さ、スピードに繋がっているのです。



※ Enterは全体の10%と見積もった (『幾指blog』hooligan氏の見解より)
※ N打鍵のうち「ん」は2/7程度 (新下駄配列の作者 kouy氏の見解より)

	右	手	K O K K	Y O U N O N	I O N N N	U O N U K
	左	手	A G A T	E R W		
			U O O K O	H Y U K I U N I		
			E R T S	A G	D E A T T A	

右手に偏ったり左手に偏ったりしています。その間もう一方の手は何もしていないわけ
で、その分無駄が多いと考えます。ただし、片手アルペジオの発生頻度に注目したいです。
実はこのせいで QWERTY の文字打ちが、「さほど問題ないスピードだと誤解する」のに一
役買っていると考えます。QWERTY は「手が忙しく仕事をしていると勘違いしやすい配列」
なのです（確定エンターの「ツターン！」の気持ちよさも含め）。実際は無駄な時間（印の
ついていない所）が大量に過ぎているにも関わらず。

カタナ式は、母音部7キーとメイン子音6キー、計13キーだけで日本語の93%を打
てるのでした（あとMWPXVと句読点の計20キーで100%。なお、メイン子音6キ
ーで、全子音の82%をカバーします）。ちなみにカナ入力で93%の日本語を打とうと思
ったら、53キーを覚える必要があります。

日本語入力は「一文字」打てばいいというものではありません。沢山の「文」、「文章」
を打つ必要があります。キーからキーの流れ、つまり連携を数多く覚えないと高速な打鍵
は実現しません。使用キーが少ないほど級数的に連携は密になります。81の二乗（少な
くても57の二乗）と13の二乗とどちらが効率がいいか、「指が覚える」立場からは明ら
かといえます。

最終結論です。カタナ式は、以下のような「日本語の中核の言葉」が打ちやすい連携に
なっていることを確認してください。

です	ます	する	した	して	ない	ある	でしょう	これ	この	こと	から
しません	でも	だから	そうなので	知らない	思う	しかも	ないのだ	するな			
なかった	なのです	しない	そんなこと	すると	それとも	どれから	された				
ところで	だが	さらに	みたいな	ちなみに	たくさん	しながら					
さくら	空	ほら	月	太陽	白い	赤い	青い	寒い	暖かい	ぬくい	熱い

冷たい 多い 少ない 長い 短い 不快だ 心地よく 即 かなり はげしく
ぬるく 非常に わたし きみ きみたち 僕 おれ 自分 わし 我 あたい
彼 彼女 あいつ あの人たち そいつ どいつ 誰 どれ

多くの漢語の二字熟語（二重母音、拗音変化、撥音が頻出の為）、およびその同音異義語
これらは、左右どちらかの手にあるペジオが含まれています。他にもたくさん見つける
ことができるでしょう。つまりカタナ式の速さの秘密は、「日本語の中核の言葉を打つのが
速いから」に他なりません。「日本語が流れるように打てる」という結論は、そういう意味
なのです。

カタナ式は、これでベストとは限りません。「人によって文体が違うから、その人に合っ
たカスタムのベストがあるはず」という意見もあります。Dvorakjのスク립トが読める人
は、カタナ式のソースを改良するのもOKです。作品によって万年筆を変え文豪もいま
す。配列もそうあっていいと思います。現状の配列は、常に「現在の一番のおもいつき」
にすぎません。

最後に。カタナ式で「カタナ式」と入力してみてください。右手母音・左手子音、頻出
キーが中央にあること、左右のアルペジオ、変換と候補選択・決定。この配列の目指した
理想の一連の流れが、この名前にこめられていることに気づくでしょう。